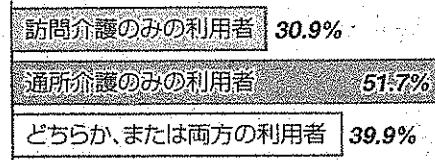


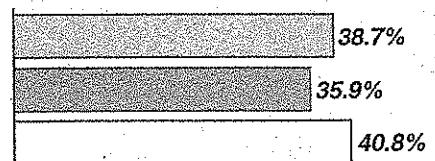
1/14 木 旗

「要支援外し」で認知症の人は…

物忘れが進行し、認知症が悪化し、
介護度が上がる



感情が不安定になり、
落ち着かなくなる



(全日本民主医療機関連合会調べ)

Q 認知症の人どうなる？

いまや認知症の高齢者は462万人。認知症になる可能性がある軽度認知障害の高齢者も400万人と推計されています（2012年時点、厚労省研究事業）。高齢者の3～4人に1人は認知症か軽度認知障害ということがあります。

厚労省は「認知症になつても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けられる社会」の

実現を掲げ、「認知症施策推進5カ年計画」（オレンジプラン）を策定。「早期・事前的な対応」を掲げ、13年度から取り組みを開始しています。しかし、「軽度者」からの介護保険サービスとりあげは、これに逆行するものです。

③

介護保険 改悪ストップ A

Q

③

連合会の調査（昨年9月）では、訪問介護を利用する要支援者の87.7%が何らかの認知症を抱えていました。

「要支援1と2」の人に対する訪問介護と通所介護が介護保険サービスから外されれば、初期の認知症の人への支援が大幅に切り下がられ、家族の負担がいっそう深刻になります。重度化を加速しかねません。

特別養護老人ホームについても、特養以外での生活が著しく困難な場合でないと「要介護1と2」の人は入れなくなるため、十分な支援を受けられず、まともな生活ができなくなる恐れがあります。

全国に1万1千人の会員がいる「認知症の人と家族の会」は、「要支援外し」は「早期発見・早期対応」という認知症ケアの原則に反しており、重度化を速めると批判し、撤回を求めています。

(つづく)